

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて 「自主・自律」「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。

1. 夢を叶える学校として・・・将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活をおくれる学校
2. 技を磨く学校として・・・普通科総合選択制度のメリットである多彩な魅力ある学習機会を与え、自己の興味関心を発展させて、得意技として磨きをかける学校
3. 社会そして世界へ繋がる学校として・・・社会人として必要なコミュニケーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する学校

## 2 中期的目標

## 1 学力と育成と授業改善の取り組み

(1) 学力の向上とコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成。

- ア 新学習指導要領に合わせて、エリア指定科目や自由選択科目の抜本的見直しやシラバスの練り直し及びその有効活用を図る。
- イ 習熟度別授業を増やすようにするなど、生徒の多様化に対応した授業形態・内容を工夫し、学ぶ意欲を高め、学力向上に取り組む。
- ウ 教科授業に加えて総合的な学習、学校行事を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。全教科が国際社会・情報科社会に対応する人材を育成できるような体制を築く。

※普総選アンケートのシラバスに関する肯定率（平成 25 年度 59%）を平成 27 年度には 65%にする。

※普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率（平成 25 年度 73%）を平成 27 年度には 80%にする。

※普総選アンケートのプレゼンテーション力に関する肯定率（平成 25 年度 66%）を平成 27 年度には 75%にする。

(2) 「わかる授業」「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 授業改善のため、研究授業や研修を積極的に行い、その成果を教職員共有のものとして、教育活動に生かせるよう努める。
- イ 調べ学習や探求など課題解決の力を付ける授業を増やす。
- ウ ICT 機器の効果的な利用してのビジュアル授業の充実や体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。

※生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率（平成 25 年度 80%）を平成 27 年度には 85%にする。

## 2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する

(1) 進学実績の向上

ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようなエリアの整備改編を行う。

イ 現在行われている土曜講習だけでなく、土曜自習室の開放を行う。

ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。

※難関 8 私大・中堅私大の延べ合格者数（平成 24 年度生 157 名）を 27 年度に 180 名にする。

(2) キャリアデザインの推進

ア 総合的な学習の時間と LHR 等を活用して、自分の人生を将来から見つめ、自分の生き方や進路について考えさせる「キャリアデザイン」として体系を組み立てる。

イ 3年間を見通した体系立てたプログラムに再編成する。地域の人材や施設・各界の本物の協力を仰ぎ、進路先のさらに先にある職業意識をはぐくむ。

※学校教育自己診断における進路情報に関する肯定率（平成 25 年度 60% H24 年度 65%）を 27 年度に 70%にする。

## 3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

ア 遅刻指導を徹底し、生活リズムの確立を支援する。

イ 毎日の登下校時、毎時間の開始と終了の挨拶の励行。

ウ 日常から言葉遣いの指導を徹底し、正しい言葉遣いへの意識向上を図る。

※平均総数（平成 25 年度 4400）を平成 27 年度に 3000 にする。

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

ア クラブ活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を充実させる。

イ 豊島高校展（作品展）を地域で開催し、生徒の学習の成果やクラブの発表の機会とする。

ウ 日常の清掃とは別に清掃活動チームを編成し、校内の特定地域を集中清掃や校外の地域清掃を行う。

エ 生徒会活動や学校行事の活性化をはかり、生徒が主体的に運営する体制を確立する。

オ 国際交流を深め、海外の学校との連携を強化して、相互訪問や英語による課題研究発表会を行なう。

カ 3年間を見通した人権教育の指導計画を確立して、豊かな心をはぐくむ教育を推進する。

※学校教育自己診断の学校行事における肯定率（平成 25 年度 63%）を 3 年後に 70%にする。

※全学年の部活動加入率（平成 25 年度 72%）を 27 年度に 80%にする。

## 4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織作り。

(1) 分掌間での連携・調整を強化して迅速な課題解決に向け、校内組織を有機的に再編する。

(2) 経営会議・運営委員会・活性化委員会など既存の委員会に加えて、課題解決のため期間限定のプロジェクト委員会を臨機応変に立ち上げる。

(3) 平成 26 年度創立 40 周年に向けて、周年事業準備委員会を立ち上げ、同窓会・PTA・学校協議会に参画いただき、周年事業を完遂する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【満足度】「本校に入学に関する満足度」は保護者の肯定回答は 91%の解答であった。生徒の肯定回答は 75%（平成 25 年 69%）であった。（1 年 71%2 年 79%3 年 74%）「学校が好きで行くのが楽しい」の保護者肯定回答も 88% 生徒肯定回答も 74%（平成 25 年 65%）であった。（1 年 75%2 年 75%年 73%）</p> <p>【学力向上】「入学後自分は成長した」の生徒肯定感は生徒全体で 75%の解答であった（平成 25 年度 71%）（1 年 66%2 年 78%3 年 81%）学年進行により学力とも成長したと実感しているようである。「本校の選択授業は様々な興味ある内容のものが用意されている」生徒肯定感 70%（平成 25 年 62%）「エリアや選択科目のガイダンスの充実」生徒肯定回答 74.8%（平成 25 年 66%）で改善が見られる。ICT 機器活用の授業についての生徒肯定回答は 57.4%（平成 25 年度 46%）ICT 機器活用については今後一層充実を図っていきたい。</p> <p>【進路・行事・部活動】「進路情報を良く知らせてくれる」の生徒肯定回答は 66%（平成 25 年度 60%）保護者肯定回答は 54%であった。生徒進路希望が多岐にわたるだけに、保護者も交えて連絡を取り合う必要がある。学校行事の生徒肯定率は 64% 部活動の生徒肯定率は 82%で保護者の肯定率は 92%であった。生徒の自主・自律をさらに高めていきたい</p>	<p>第一回（5 月 30 日）</p> <p>○学校経営計画・入学者選抜試験・遅刻の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導と学力には相関関係があるので積極的に取り組んでください。</li> <li>・今年と同じことをやっても志願者倍率は確保できません。しっかり地域の中学校に豊島高校の取組みを説明してください。キャリアデザインの取組は生徒に夢を与える充実した内容を検討してください。</li> </ul> <p>第二回（9 月 26 日）</p> <p>○学校経営計画・新規事業のオーストラリア短期語学留学・授業アンケート・改編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際感覚を早い時期に芽生えさせるためにも、短期語学留学の成功は評価できる。継続してください。授業アンケートのチャートが昨年より大きくなっているのはよい傾向です。コース制改編については、断ることはできないのか。コースのネーミングは中学生にわかりやすいものにしてください。</li> </ul> <p>第三回（1 月 30 日）</p> <p>○学校教育自己診断・校経営計画 26 年度自己評価案及び計画（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査と自己診断は別物です。生徒の自由記述の分析が大切。「学校へ行くのが楽しい」が多いのは良いことだ。普通科総合選択制の改編については、マーケット私学のマーケットの分析も参考になる。コース名称はわかりやすいほうが良い。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校評価
1 学力向上とコミュニケーション力の育成と授業改善の取り組み	<p>(1) 学力の向上とコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成。 ア エリア指定科目や自由選択科目 イ プレゼンテーション力・コミュニケーション力 (2) 「わかる授業」「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ウ 授業改善の取り組み エ ICT機器の効果的な活用と校内ICTネットワーク構築</p>	<p>ア・エリア指定科目と自由選択科目の生徒に付ける学びの目標を明確にして、学力向上につなげる。進路実現に向けての講習会を充実する。 イ・授業でプレゼンテーションをする機会を数多く設ける。またホームルーム、総合的な学習の時間を活用して発表会等を企画し、優秀者を表彰する。グローバル人材の育成として英語力向上を図り国際コミュニケーション力向上につとめる。 ウ・本校独自の授業力向上に向けての研修会を実施する。11月の授業公開週間を中心に各教科で研究授業、互見授業を行い、授業改善を推進し、アクティブラーニングを積極的に取り入れ課題解決型授業の実践と研修を実施する。 エ・全教科でICT機器を利用している授業を研究し、実践する。またICT機器を活用した一元化された生徒情報を活用し、校内情報ネットワークの活用を推進する。</p>	<p>ア・普総選アンケートの選択科目と進路実現に関する肯定率(平成25年度65%)を68%にする。 イ・普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率(平成25年度73%)を75%にプレゼンテーションに関する肯定率(平成25年66%)を70%にする。1・2年生に外部英語力評価試験を全員受験させ、目標スコアを達成する。 ウ・生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率(平成25年度80%)を83%に。普通科普総選アンケートの自分で考える力の肯定率(平成25年度79%)を82%にする。 エ・英語科で取り組み始めたタブレット活用授業を他の教科での活用研究開始。校内情報ネットワークの強化を図り、統合ネットワークに移行する。</p>	<p>ア・普総選アンケートの選択科目と進路実現に関する肯定率は66.3%であった。(○) イ・普総選アンケートのコミュニケーションに関する肯定率は71.6% プレゼンテーションに関する肯定率は67.4%であり、目標値には届かなかったが前年は越える結果になった。1・2年生の外部英語評価試験は300点以上は64.6%から88.2%に伸長。2年生は300点以上が76%から87%に大幅に伸長。着実に英語の力が伸長していると評価できる。(○) ウ・生徒の授業アンケートの分かりやすい授業の肯定率82.7%であった。(○) 普総選アンケートの自分で考える力の肯定率は74.6%であった(△) エ・英語科でタブレットを使った生徒のプレゼンテーションや小テストなど授業での活用は定着したが、他教科ではタブレットの管理・メンテの課題解決ができず、活用に課題を残す。統合ネットワークを利用した校務処理システムへの移行は定着する。(△)</p>
2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する。	<p>(1) 進学実績の向上に向けての取組み ア 難関私立8大学に毎年数十人が合格できるようなエリアの充実 イ 進学意識の醸成 (2) キャリアデザイン ウ 職業意識、進路意識の醸成</p>	<p>ア・24年度入学生の「総合アドバンスエリア」のエリア指定科目(2年次、3年次に履修)の教育目標を定め、生徒の進路希望に沿った授業を構築し実践する。 イ・全学年を対象とする大学見学ツアーを夏1回、秋1回実施し、早い段階から大学への進学意識を醸成する。とくに総合アドバンスエリアの生徒には参加を義務付ける。 ウ・総合の時間とホームルームを使っての「豊島キャリアデザイン」3年間の体系立てたプログラムに改変し、高校の出口の更に先にある、将来の自分を設計するキャリア教育の充実を図る。地域の人材や各界の本物の協力を頂き、職業意識の醸成を図る。進路情報についても、保護者も交えた情報提供を綿密に行う。</p>	<p>ア・総合アドバンスエリアの指定科目(4科目)のそれぞれにおいて教育目標を定める。 ・難関8私大・中堅私立大学延べ合格者数(平成25年度生176名)を180名にする イ・難関大学8校をはじめ、生徒の進学意識を高める大学見学ツアーを2回4大学以上実施する。 ウ・学校教育自己診断でのHRや総合の時間での進路や適性についての肯定感を(平成25年度63%)を65%にする。 ・キャリアデザインプログラムの肯定感を70%にする。</p>	<p>ア・総合アドバンスの連絡会を教科軸で検討会を行い、教育目標と現状の課題分析会を実施(△) ・平成26年度生 難関8私大・中堅私大の延べ合格者数133名。(○) イ・7月10日立命館大学35名7月22日神戸学院大学 甲南大学に51名参加 (○) ウ・学校教育自己診断の総合の時間での進路や適性についての肯定感は77%あった。キャリアデザインプログラムについては、「プロに聞く」「かたりば」「教員が自己を語る」「分野別説明会」など3年間を体系立て多プログラムが構築されつつある。各々の企画の肯定感は70%を超えている。(◎)</p>

## 府立豊島高等学校

<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に向けての取組み ア 遅刻指導の徹底 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の帰属意識、愛校心を高める取組み イ クラブ活動充実のための取組み ウ 生徒会活動や学校行事活性化に向けての取組み エ 創立 40 周年記念行事の完遂 オ 国際交流を本格的に立ち上げ、海外の学校との連携を強化</p>	<p>ア・遅刻の多い生徒については、期限をきって回数をカウントし、早朝登校や個別指導を徹底して改善をはかる。 イ・新 1 年生を対象とするクラブオリエンテーションをさらに発展させ、全員に体験入部を実施し、入部率の向上をはかる。 ・豊中市などの地域社会と連携して地域行事や小中学生のスポーツイベントにクラブ生徒を派遣し、豊島高校展など地域に貢献する豊島高校をアピールする。 ウ・生徒会が中心となった中学生向け学校見学会の参画や体育祭・学園祭の運営を通じて、学校への誇りと生徒の自主自律の精神を育てる。 エ・11月1日の創立40周年記念に向けて、各種委員会を円滑に進め、滞りなく40周年事業を執り行う。 オ・韓国慶南女子高校との姉妹交流を強化する。また今年度より海外短期語学研修を実施し、国際感覚の醸成につとめる。 カ・生徒の個性を大切にし、お互いの多様性を尊重して、いじめの無い学校をめざす。</p>	<p>ア・遅刻総数を(平成25年度4550)を3500にする。 イ・全学年の部活動加入率(平成25年度72%)を75%にする。 ・部活動の地域事への参加回数(平成25年度はのべ18回)を20回以上にする。 ウ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率(平成25年度63%)を65%にする。 エ・創立40周年事業の成功 オ・韓国交流を実施し、事後のアンケートにおいて満足度を80%にする。海外短期語学研修を成功させ、定着を図る。</p>	<p>ア・遅刻総数は3学期末で2591(昨年3658)3000を下回った。(◎) イ・全学年の部活動加入率は72%であった(△) ・ダンス部—箕面市・高槻市・豊中市のフェスタに参加 軽音楽部—豊中市のフェスタに参加 吹奏楽部—介護老人ホームや障害者作業所での演奏会ほか地域演奏会5回 男女バスケットボール部—地域の中学校の大会「豊島カップ」を実施し、15校300名余りの中学生が熱戦を繰り広げる。豊島高校展11月22日に実施 地域住民201名(昨年139名)が豊島高校の作品やエリアでの授業内容など観賞頂く。地域活動行事参加のべ15回参加(△) ウ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率は63.9%であった。(△) エ・周年事業の締めくくりとして、11月1日40周年記念式典を本校体育館にて実施。在校生・卒業生・PTAに参加いただく。一同で40年の伝統をふまえ、50年に向けて本校の今後の発展にむけ、気持ちを新たに オ・1月16日17日 韓国慶南女子高校交流会実施 肯定回答90%を越える。来校生徒全員をホームステイ受け入れできた。 今年度より、国際交流新規事業として2週間オーストラリアアデレード Modbury High School にて短期語学留学実施 参加生徒の満足度はほぼ満点の内容(◎) オ・安心して安全な校づくりアンケートにおいていじめの報告はありませんでした。(○)</p>
---------------------------------------	---	---	---	--